

札幌市立高校教育改革方針（素案）

第 1 章 札幌市立高校教育改革方針の策定について

1 方針策定の背景・趣旨

○ 急速な社会情勢の変化

少子化による生産年齢人口の急減や経済規模の減少、グローバル化や情報化の進展など、社会の変化は著しく、将来は職業のあり方も様変わりしている可能性が高く、このような予測の難しいこれからの時代に通用する力を育成する必要があります。国もその必要性を捉え、高校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革を進めています。

○ 市民ニーズへの対応

平成 15 年に「札幌市立高等学校教育改革推進計画」を策定し、各校の特色化や市立高校共通の取組などを進めてきましたが、これらの取組は、市立高校の卒業生を対象に実施したアンケート調査結果などを見ると、市民から高い評価を得ており、市民のニーズは捉えてきたものと考えられます。

一方、学校生活や友人関係などに起因した学校不適應を起こす生徒や障がいなどにより特別な支援を必要とする生徒がおり、適切な対応が求められている。

今後も、生徒の能力や適性、特別な教育的支援などニーズの多様化に対応していく必要があります。

○ 中学卒業生数の減少

市内の中学校卒業生数は年々減少し、それに伴って高校進学者数も減少しており、今後も引き続き減少する見込みであり、北海道立の高校で学校統合を含めた学級削減を行っている中、今後は、北海道教育委員会と協調し、市立高校においても学級削減を行う必要があります。

中学校卒業生数の減少（H27 年約 16,500 人⇒H40 年約 15,500 人（約 1,000 人減））

○ 方針策定の趣旨

これら背景を踏まえ、幼児期、義務教育段階での学びを基礎とし、市立高校において、生涯をたくましく生きていく力を育成するために、教育内容の発展・充実を図るとともに、少子化に伴う高校進学者数の減少期における学校の在り方を示すため、「市立高校教育改革方針」を策定しました。

2 方針の位置付け

本方針は、幼児期から生涯を通じた教育施策を総合的に示す「札幌市教育振興基本計画」の高校教育分野を具体化するもので、札幌市教育委員会が所管する市立の高等学校、中等教育学校を対象とします。

3 方針の構成と計画期間

(1) 札幌市立高校教育改革ビジョン

今後 10 年間程度を見据えた基本理念を示すもの

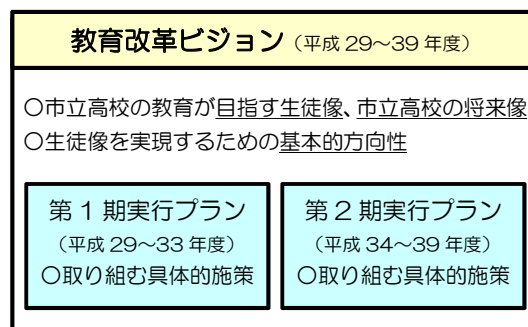
【期間】平成 29 年度～39 年度

(2) 札幌市立高校教育改革実行プラン（第 1 期・第 2 期）

概ね 5 年間で取り組む具体的な施策を示すもの

【期間】①第 1 期プラン：平成 29 年度～33 年度

②第 2 期プラン：平成 34 年度～39 年度



1 これまでの取組及びその成果

生徒の主体的で意欲的な学習を促進するとともに、個性を伸ばし豊かな人間性を育む教育の推進を目指し、単位制や専門学科・専門コース、新しいタイプの定時制高校、中等教育学校の設置など特色ある制度の導入を行い、市民に多様な選択肢を提供してきました。

あわせて、市立高校の共通の取組として、進路探究学習や国際教育、情報教育、カウンセリング体制の充実などを進めてきました。

《特色ある制度の導入》

学校名	特色ある学習活動
旭丘高校	平成 16 年度から、単位制導入
新川高校	平成 21 年度から、フロンティアエリア制導入
開成高校	平成 16 年度から、コスモサイエンス科導入（平成 29 年 3 月閉校）
平岸高校	平成 17 年度から、デザインアートコース導入
清田高校	平成 17 年度から、グローバルコース導入
藻岩高校	平成 18 年度から、環境を柱とした学習活動の展開
啓北商業	平成 17 年度から、未来商学科導入
大通高校	平成 20 年度から、単位制・3 部制を導入した新しいタイプの定時制高校として開校
開成中等教育学校	平成 27 年度から、国際バカロレアの教育プログラムを活用した課題探究的な学習を展開する中高一貫教育校として開校

2 課題

全日制高校における特色ある制度については、各校の取組が根付いてきており、これらの取組を継続するとともに、それぞれの特色を磨き、更に充実・発展させる必要があります。

一方、単位制・3 部制を導入した新しいタイプの定時制高校である大通高校には、進路希望、学習歴や学習進度などが異なる多様なニーズをもった生徒がおり、卒業後の社会参画を目指し支援を充実させるためには、教員だけでなく、企業や地域など様々な分野の外部人材との協力体制を構築することが必要です。

また、市立高等学校共通の取組について、進路探究学習の関連では、大学等の進学先の選択理由で、多くの生徒が「興味・関心のある学問分野」を挙げるなど、主体的に将来の生き方や進路を考える力を育成することができている。一方、国際教育の関連では、生徒全体として、英語力や国際感覚について自信を持てるようになっていない（※1）など、目的を十分に達成できていないものもあります。これらの状況を踏まえ、現在の取組の成果を生かしつつ、課題を整理し、新たな取組につなげていく必要があります。

《市立高校卒業後の進学状況と就職状況（平成 27 年 3 月卒業生）》

種別	状況	大学進学者		就職者	専門学校等進学者	予備校等入学者	その他	合計
		国・公立	私立					
全日制	人数	568	873	29	311	317	38	2,136
	比率	26.6%	40.9%	1.4%	14.6%	14.8%	1.8%	100.0%
定時制 (大通高校)	人数	5	50	44	64	0	65	228
	比率	2.2%	21.9%	19.3%	28.1%	0.0%	28.5%	100.0%

※ 平成 23 年度に実施した市立高校改革に関する卒業生アンケート調査の結果による。

第3章 札幌市立高校教育改革ビジョン

1 市立高校の教育が目指す生徒像

- 個性や能力を伸ばし、夢や希望を持って主体的に学び、自分の人生を切り拓き、生涯をたくましく生きていく力を身に付けた生徒を育てます。
- 他者への思いやりや寛容さを持ち、社会と関わり貢献する力を身に付けた生徒を育てます。

2 市立高校の将来像（目指す形）

- 生涯にわたって活用できる力を育成し、生徒の主体的で意欲的な学習を促す魅力ある学びの場
- 各学校がそれぞれの特色を伸ばし、その特色を他校と共有し、「市立高校」という大きな枠の中で、学力の違いや障がいの有無など、様々な差異を超えて、多様な生徒が交流し、成長していく学びの場
- 地域や企業、大学などとの連携・協働により、地域社会全体で生徒を育む社会に開かれた学びの場

3 基本的方向性

- (1) 生徒の個性や能力を伸ばす質の高い教育の充実
- (2) 社会に開かれた教育活動の推進
- (3) 学校の取組を支える仕組みの構築

4 市立高校の10年後の姿（イメージ）

学 校	第1期（H29～33年度）	第2期（H34～39年度）
旭丘高校 新川高校 平岸高校 清田高校 藻岩高校 啓北商業高校 大通高校 開成中等教育学校	既存の専門学科・コースの充実 新たな専門学科・コースの設置 単位制の試行導入	（例示） ●専門学科・コースの集合型高校 ●開成中等教育学校とは別タイプの 中高一貫教育校 ●全日制のチャレンジスクール（※2） ●全校単位制
※学校規模の適正化	〇32・33年度：合計4学級程度の削減	〇37年度又は39年度：学級削減（数未定）

(1) 第1期

- ①既存の専門学科・コースの充実
- ②新たな専門学科・コースの設置
- ③単位制の試行導入

(2) 第2期

- 想定される項目（例示）
専門学科・コースの集合型高校、開成中等教育学校とは別タイプの中高一貫教育校、全日制のチャレンジスクール（※2）の設置や全校への単位制導入など。

※2 小・中学校での不登校や高校での中途退学を経験した生徒など、これまで能力や適性を十分に生かすことができなかった生徒が、自分の目標を見つけ、それに向かって挑戦していく学校